文節(3)

連文節

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをするものを**連文節**という。

連文節で主語・述語・修飾語・接続語・独立語と同じ働きをするものをそれぞれ、**主部**・**述部**・**修飾部**・**接続部**・**独立部**とよぶ。

・白い（修飾語）　鳥が（主語）　飛ぶ。（述語）　→　白い　鳥が（主部）　飛ぶ。

・彼は（主語）　兄の（修飾語）　友達だ。（述語）　→　彼は　兄の　友達だ。（述部）

連文節では、並立や補助といった関係がみられることがある。

●並立の関係

二つ以上の文節が対等な関係で並び、ひとまとまりになっているものを、並立の関係という。

（例）雨と　風が（並立の関係（主部））　強い。　　その　山は　高く　けわしい。（並立の関係（述部））

並立の関係の見分け方

並立の関係になっている文節同士は、文節の内容を入れ替えても意味が変わらない。

（例）雨と風が　＝　風と雨が

●補助の関係

下の文節が上の文節の意味を補って、ひとまとまりになっているものを、補助の関係という。

（例）犬が　走って　いる。（補助の関係）　　本が　置いて　ある。（補助の関係）

これを　見て　ほしい。（補助の関係）　　今日は　暑く　ない。（補助の関係）

補助の関係では、下の文節（補助の文節）はもとの意味が薄れ、上の文節の意味を補っている。このような補助の文節に含まれる動詞や形容詞を、補助動詞・補助形容詞という。

（例）今　走って　いる。（補助動詞）

（補助動詞「いる」は、もとの意味が薄れ、今動作が継続しているという意味を補う働きをしている。）

補助の関係の見分け方

補助の関係は、次のような形になっている。

・……て（で）＋　補助動詞（補助形容詞）

（例）……て　いる　　……て　ある　　……て　みる

……て　くる　　……て　いく　　……て　おく

……て　あげる　　……て　もらう　　……て　ほしい

・形容詞（形容動詞）＋　補助形容詞「ない」

（例）暑く（形容詞）　ない（補助形容詞）

確認テスト

(1) 次の各文の――線部の連文節の働きを、それぞれア〜オから選びなさい。

① 彼女(かのじょ)は 難しい 本を 読む。 〔　〕
② 彼の 弟は 元気な 小学生だ。 〔　〕
③ とても 寒いので、 コートを 着た。 〔　〕
④ おだやかな 波が 水面に 広がる。 〔　〕
⑤ 今年の 目標、 それは 優勝だ。 〔　〕

ア 主部　イ 述部　ウ 修飾部
エ 接続部　オ 独立部

(2) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 梅と 桜が 咲(さ)いた。
イ 母と 山に 行った。
ウ 彼は 歩いて きた。
エ 海は 広くて 大きい。

〔　・　〕

(3) 次の中から、――線部の二つの文節が、補助の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 先生は 本を 読んで いる。
イ 先生は 今 図書室に いる。
ウ 赤い リンゴが ない。
エ リンゴが 赤く ない。

〔　・　〕

(4) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものと補助の関係になっているものを、それぞれ二つ選びなさい。

ア おいしい お菓子(かし)を もらった。
イ 鉛筆(えんぴつ)か ペンを 借りたいです。
ウ 新しく ない 備品を 整理しよう。
エ 自分の 知識を 試(ため)して みた。
オ 遊園地まで 車で 出かけた。
カ 得意な 教科は 国語や 英語だ。

並立の関係〔　・　〕
補助の関係〔　・　〕